

※対応状況：① 当年度において対応予定、② 翌年度以降対応予定、③ 検討中、④実施中または対応済み、⑤ 対応不可、⑥ その他

令和5年度 第2回「区政会議」での御意見	
御意見要旨	区からの回答
1 【安全・安心で住みやすいまちづくり】 ・参加者を増やす、一般の方が参加したくなる仕組みとして、例えば運動会など、何かのイベントと同時に防災訓練を実施してはどうか。他区で実績があるとのことなので、取り入れてみては。 ・防災訓練の内容について、実際に消火器やAEDを使用した訓練、避難所でのベッド組み立て、車いすの運搬、消防署員の指導など、本番さながらの訓練を実施する。 ・子どもたちは付き添いではなく、何か役割を与えて動いてもらう方が楽しんで参加できる。 ・イベント中の発災を想定する（あらゆる場面で起き得る喚起策として活用） (安全安心なまち部会) 意見等記入シート（武守委員・下元委員）	・地域防災訓練の参加者数を増やすための内容の充実について、訓練を主催する地域と区役所が連携して創意工夫に取り組んでまいります。 ・例えば、地域防災訓練の中で、救護所での段ボールベッドの組み立て、消防署員による消火器操作や応急講習等を実施しているところですが、さらに参加者が実際に発災時を想定した体験ができる機会の充実を検討してまいります。 ・また、地域の防災訓練の参加につなげるためのきっかけとして、多くの参加者が集まる区民まつりに、防災イベントブースを設け広く呼びかけを行うことなども検討してまいります。
2 【安全・安心で住みやすいまちづくり】 ・コロナ前に実施していた中学生と地域との訓練について、小学校の活用も含めて復活を検討してはどうか。 (安全安心なまち部会)	・中学生は災害時支援の担い手としても役割が期待されることから、防災リーダーなど地域住民と協働する機会の提供は有意義であると考えます。各学校の意向を踏まえながら、取組内容を検討してまいります。
3 【安全・安心で住みやすいまちづくり】 ・防災訓練は地震に関する訓練が多いが、津波もいつ来るか分からないので、津波が来た想定での訓練もしてみてもどうか。津波が来たら避難所は開設できないので、家庭の備蓄で過ごしていただくなど情報をいかに周知するかを検討しなければならない。 - また、平日昼間に災害が発生した際に、実際に浪速区にいてる学生や働きに来られている方に災害が起こった際に協力をしてもらおう取組も必要。 (安全安心なまち部会)	・津波による浸水が想定される地域においては、津波を想定した訓練にも取り組む必要性が高く、訓練を主催する地域と調整しながら、取組内容を検討してまいります。 ・自宅避難や家庭内での備蓄等については、広報紙をはじめあらゆる機会を通じて周知啓発していくこととしており、引き続き取り組んでまいります。 ・区内在勤、在学者による災害時支援に関しては、地域防災訓練に近隣の事業所の社員や専門学校の生徒が参加するなどして交流を図っており、今後も引き続き取り組んでまいりたいと考えています。

区の対応（方針）	※対応状況
・令和6年11月9日実施の地域や関係機関が参加する浪速区総合防災訓練の地域防災訓練において、避難所内の救護所での段ボールベッドの組み立て、仮設トイレの設置や消防署員による消火器操作訓練、応急講習のほか、新たに津波を想定した垂直避難訓練、個別支援プランを活用した安否確認訓練を取り入れるなど、実災害を想定した内容を取り入れます。 - また、地域防災訓練への参加につなげるための取り組みとして、区民まつりにおいて、防災PRエリアを広く設置し、その中で防災クッキング実演や体験型のワークショップ、地域防災活動のPRを含むパネル展示、協力企業等による防災グッズの展示などのほか、関係機関等と連携し、起震車体験や水道局による防災クイズ、警察や自衛隊による防災啓発など区民への防災意識向上に取り組んでいます。 (令和6年10月末時点)	④
・中学生は災害時支援の担い手としても役割が期待されていることから、防災リーダーなど地域住民と協働する機会の提供は有意義であると考えます。 ・令和6年度に実施した中学校の防災授業（訓練）において、該当地域の地域防災リーダー（隊長等）も訓練に参加・見学し、交流する機会を設けました。 (令和6年10月末時点)	④
・令和6年11月9日の地域や関係機関が参加する浪速区総合防災訓練では、初めて南海トラフ巨大地震、大津波警報の発令を想定し、垂直避難訓練を取り入れて実施することとしました。 - また、自宅避難や家庭内の備蓄等については、地域防災訓練や区民まつり、広報紙1月号（防災特集掲載予定）など様々な機会を通じて啓発に取り組んでいます。 ・区内在勤、在学者による災害時支援に関しては、地域防災訓練に近隣の事業所の社員や専門学校の生徒が参加するなどして交流を図っており、今後も引き続き取り組んでまいりたいと考えています。 (令和6年10月末時点)	④

区政会議における主な意見・回答・対応等一覧（令和6年度 第2回区政会議）

※対応状況：① 当年度において対応予定、② 翌年度以降対応予定、③ 検討中、④実施中または対応済み、⑤ 対応不可、⑥ その他

令和6年度 第1回「区政会議」での御意見		区の対応（方針）	※ 対応 状況
御意見要旨	区からの回答	同左	①
1 【里親制度の普及啓発について】 ・区や各校区のPTA会議や、民生委員・主任児童委員合同研修会、区PTA・青少年指導員・こども会合同研修会などで、広報周知活動や説明会をしてはどうか。その際に、里親になられた方による体験談を聞く機会があるとよいのではないか。 ・リーフレットは区役所3階ではなく、1階や2階に配架する方がよいのではないか。 グループ①	・いただいたご意見を踏まえ、担当部署（こども相談センター）と調整のうえ、民生委員・主任児童委員の研修会、区PTA・青少年指導員・こども会合同研修会で里親制度にかかる研修を開催する用意を現在進めております。 ・より多くの区民のみなさまに里親制度を知っていただくために、リーフレットを区役所1階に配架しました。	同左	①
2 【里親制度の普及啓発について】 ・現在の広報の方法は、少しでも興味を持っている人に手に取ってもらうものになっているが、多くの人は、里親制度を知らない、高いハードルがあると敬遠しているのではないかと。 里親制度の各種支援機関の説明・相談会を見ても、参加者は比較的小人数で、次の行動へ繋げる事が難しい様子である。 ファミリー・サポート・センターの提供会員（子育ての応援者）登録も一定あり、里親制度との親和性もあると考えられるので、提供会員の登録会の機会に広報してみるのも良いのではないかと。 また、昨今の物価高での経済的負担が増えている中で社会的養育に向けた余裕がないことも、里親登録を躊躇してしまう一因と考えられるので、経済的な支援もある事の周知も大切ではないかと。 事前質問・意見票（下元委員）	・里親制度の普及にかかる効果的な啓発手法について、さまざまなアイデアをご提案いただきありがとうございます。 ご意見のとおり、里親制度についてあまりご存知ないという方には、「里親」＝特別養子縁組を思い浮かべること登録自体ハードルが高いと思われる方もいらっしゃると思います。 しかし、里親制度には一定期間（短期も可）家庭で養育いただく「養育里親」など様々な形態があり、さらに、里親手当や子どもの生活費・医療費支給などの経済的支援や家事・育児支援等のサポート体制が準備されていることなど、まだまだみなさまのもとに里親制度に関する正確な情報が届いていないのが現状であり、こうしたきめ細かな情報を適切な機会に効果的に発信し、周知に努めてまいります。 その一環として、今回いただいたファミリー・サポート・センターの提供会員への働きかけにつきまして、効果的な手法と考えますので、センターとの協議を進めてまいります。 今後、みなさまに広く里親制度の内容についてお知りおきいただき、ひとりでも多く登録里親数が増加するよう、担当部署（こども相談センター）や里親支援機関と連携して今後の広報周知活動に努めてまいります。	同左	①
3 【高齢者や認知症の方への対応協力施設について】 ・高齢者や認知症の方が日常生活の中で利用する施設として、理髪店や美容院、喫茶店や銭湯などに協力してもらってはどうか。また、リーフレットの配布だけでなく、オレンジチーム（認知症初期集中支援チーム）のステッカーの掲出も併せて協力依頼することで、オレンジチームの認知度の向上にもつながるのではないかと。 ・広報紙で協力いただける店舗を募集してもよいのではないかと。 ・店舗の少ない地域では、町会等での見守りが重要であり、町会へ協力依頼することも必要ではないかと。 グループ②	・理髪店や喫茶店などご協力いただける生活関連施設を増やせるよう、区の広報紙やSNSの活用を検討するとともに、区社協（オレンジチーム）とも連携した対応を進めてまいりたいと考えております。 ・また、現在進めている「地域見守り会議」と防災訓練との連携などより地域活動協議会等とも連携した効果的な取組みとなるよう検討します。	同左	③

区政会議における主な意見・回答・対応等一覧（令和6年度 第2回区政会議）

※対応状況：① 当年度において対応予定、② 翌年度以降対応予定、③ 検討中、④実施中または対応済み、⑤ 対応不可、⑥ その他

令和6年度 第1回「区政会議」での御意見		区の対応（方針）	※ 対応 状況
御意見要旨	区からの回答		
4 【区民まつりについて】 ・会場は、広い場所で「交流・つながる」というテーマに沿うことができる会場、雨などの天候に左右されない会場がよい。 ・100周年記念事業として令和6・7年度の浪速公園での開催状況を踏まえ検討が必要。 グループ③④	・令和6、7年度は浪速公園で開催することとしており、それを踏まえ、課題整理のうえ令和8年度以降の開催場所について検討してまいります。課題整理にあたっては、「交流・つながる」というテーマ及び地域コミュニティの活性化につながるよう検討してまいります。	同左	②
5 【令和7年度予算の方向性について】 ・「浪速まなび支援事業」の廃止について、貧困とは関係なく学力の低い子もいるなかで、中間層への支援が手薄になるのではないか。 グループ①	・浪速区では、令和7年度から小学5、6年生を対象に、浪速区民センター等で民間事業者を活用した学習支援を実施し、引き続き子ども達の基礎学力向上を図ることを検討しています。 ・「浪速区ボランティア人材バンク事業」では、学校で授業中や放課後等の学習支援を行うサポーターを募集しています。 「浪速まなび支援事業」は廃止となりますが、引き続き学校で、子ども達の学習支援が実施できるよう人材確保の面から支援してまいります。	同左	④
6 【令和7年度予算の方向性について】 ・令和7年度新規事業「（仮称）登校支援が必要な児童生徒への支援事業」について、関係先としっかり調整して枠組みを確立させてほしい。 グループ②	・この事業は、希望する学校へ登校支援サポーター（有償ボランティア）を配置し、不登校児童生徒や遅刻や欠席が多い児童への支援を行うものです。 ・この間、各学校関係者とヒアリングを行い、事業の目的、学校の現状やニーズを共有してまいりました。 ・今後、より具体的なニーズを把握し、事業実施に向け検討をすすめます。	同左	④
7 【その他】 ・学校協議会の公開（開催日）を取りまとめて教えてほしい。各校のホームページで掲載ページが異なり、見つけることが容易でなく出席できない。 事後アンケート・評価シート（下元委員）	・学校協議会の開催日については、今後、区ホームページで掲載するようにいたします。	同左	①